

# ふらの農業委員会だより vol.45

令和6年2月

【発行】富良野市農業委員会

電話 0167(39)2323

FAX 0167(23)2122



農林水産省前にて

- ★主な内容
- 新年挨拶(1ページ)
  - 道外視察研修報告(2~4ページ)
  - 諸行事報告(4~6ページ)
  - ふらの未来農業EXPO2023(7ページ)
  - 総会予定日・賃貸料一覧(8ページ)



## 会長挨拶

富良野市農業委員会

会長 及川 栄樹

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、ご家族お揃いにて新年を迎えられた事に心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、未だ収束の兆しが見えないロシアによるウクライナへの軍事侵攻に加え、イスラエルガザ地区においてのパレスチナとの紛争により罪もない人達が犠牲になっており、早期停戦を願うばかりです。

日本においては、WBCで優勝するなど昨年は日本人スポーツ選手の活躍が特に目立つ1年でした。

日本経済においては、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し行動制限が緩和された事と円安による海外からの観光客の急増が重なり飲食・宿泊・バス・タクシー業界においては高い稼働率を維持しています。しかし急激な需要増に伴い各業種とも労働力確保が大きな課題となっております。富良野地区の農業においては、融雪も早く春作業もおおむね順調に行う事ができました。7月以降の記録的な猛暑により作物によっては、品質の低下がありました。総じて有利な販売価格により農家経済においては苦勞が報われた一年でありました。

さて、富良野市農業委員会においては本年度改選期を迎え4月1日より新たな農業委員により委員会活動が継続されます。

国が策定した第5次男女共同参画基本計画において2025年までに農業委員に占める女性の割合を30%に設定されたのを受けて、富良野市においても優良事例地域を参考に、次期改選において4名の女性農業委員を登用すべく調整中であります。

また、農業経営基盤強化促進法が改正され令和5年4月に施行されました。これにより令和7年3月31日までに①地域の農業の将来の在り方と②農用地の具体的な利用の姿を示した「地域計画」を市町村が策定することとなり、農業委員会は10年後の農業を担う者ごとに利用する農用地等を定めた地図(「目標地図」)の素案を作成することになっていきます。目標地図の作成に向けご協力をお願い申し上げます。

結びに、皆様方のご健勝で稔り多い1年になりますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

# 鳥獣害対策について道外研修を実施

10月31日—11月1日

農政部会道外研修について

千葉県館山市・東京都

【10・30～11・1】

農政部会では、地域農業を取り

巻く環境、課題、対策について毎年協議してます。数年前は担い手対策や基盤整備、市道の拡張、空き家対策など様々な議題が上がっていました。ここ数年はとにかく鳥獣被害が深刻であるとの皆の認識から一本に絞って最重要課題として取り上げています。

今回、10月30日より3日間の日程で「鳥獣被害の対策について」をテーマとして道外視察研修に行って来ました。

1日目は千葉県館山市の有害鳥獣焼却処理施設の視察と、隣接しているジビエセンターでの研修を行いました。ありとあらゆる有害鳥獣が生息している千葉県ですがイノシシが群を抜いて多く、農業者も積極的に捕獲し数多く運び込まれているとの事です。また館山市では捕獲専門の協力を2名を配置しており、お二人の話も伺うことができ、イノシシの凶暴さが

伝わって来ました。ジビエセンターでは新鮮さと品質にこだわり脂の厚みや雄雌によって細かく買取価格を変えブランド化を目指しているとの事でした。

2日目は国会議員会館において東議員との面談、午後は農林水産省鳥獣対策農村環境課の課長補佐の2名の方と面談し、富良野市及び沿線地域における鳥獣被害の実態と対策方法について報告し、農水省の方から鳥獣被害対策の交付金の説明と来年度の新たな交付金「シカ特別対策」の情報提供、また効果的な被害防止に向けた取組事例の報告も頂きました。

3日目は日本UAV利用促進協議会の視察を行いました。ドローンを使って野生鳥獣の生息域や個体数を調査し肉眼では目視しづらい所でも赤外線カメラによって識別し分析を行っているとの事です。またドローンを使っての追い払いやハンターと協力しての追い込み、鳥対策としては単にドライアイスや落として卵の外観をそのままにして死滅させるなど多様な方法によって鳥獣被害対策を行っ

ていました。

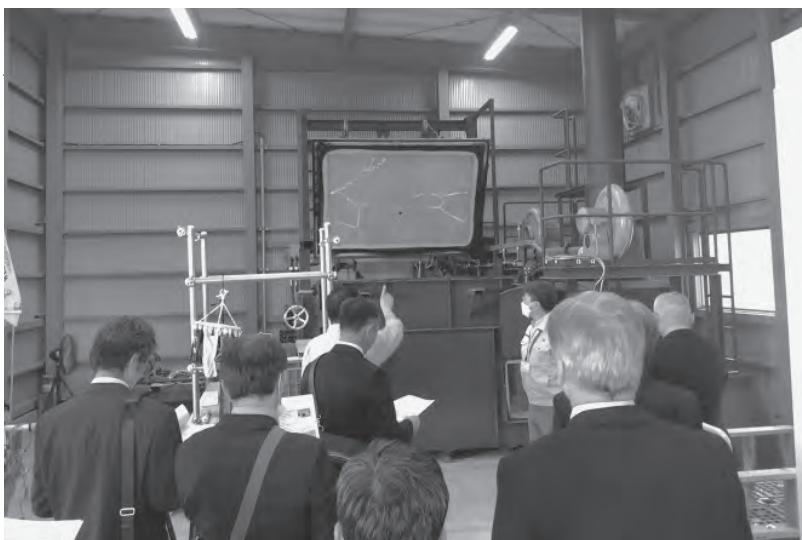
今回の研修により100%被害防止することは困難でも、可能性のあるものを少しでも多く取り入れて被害軽減に努める事が必要だと思えます。

今回このような貴重な研修をさせていただきありがとうございます。 (中元 修)

## 館山市(千葉県)の鳥獣害対策視察

千葉県房総半島南部に位置する館山市を訪問し、有害鳥獣焼却処理施設とジビエセンターで研修を行いました。この二つの施設は、隣接しており清掃センターや衛生センターなどが集約されている場所にあります。市内どこからでも1時間以内に着けるということです。

館山市は人口4万5千人で千葉県南部方面の商業中核都市となっており、農業、漁業、観光が主な産業です。農業経営体としては、稲作中心で野菜、花き、果実、その他になっています。森林面積が全体の4割を占めイノシシ、シカ、キョン、アライグマなど野生



動物が数多く生息しています。北海道はシカ被害が主流ですが、本州方面ではイノシシ被害が多く館山市も例外ではなく毎年駆除や防護が行われ農作物を守ってきました。しかし平成元年の台風上陸で市全域が甚大な災害に見舞われ、イノシシなど野生動物駆除に手が回らなく個体数が激増してしまい農作物への被害が深刻になったそうです。

有害鳥獣を駆除した後の個体は、従来埋設処分を行ってしま



たが埋設に係わる労力や埋設地の確保、埋設による環境汚染が課題となっていました。

館山市はその打開策として、令和4年に国の「鳥獣被害防止総合対策交付金」を活用し館山市有害鳥獣焼却処理施設を建設し運用開始しました。この施設の焼却炉は、1回あたり最大四百キロの処理能力があり通常サイズのイノシシ13頭分になります。一定の火力に調整できる自動制御燃焼システムになっており余熱を含めて6時間かけて焼却するそうです。また、焼却炉の近くに大型冷凍保管庫があり動物を一頭ずつ袋に入れて冷凍しています。これは、1回の最大処理能力分に調整し経費の無駄にならないようにするためです。市内の捕獲従事者が市内で捕獲した有害鳥獣のみが対象で無料引き取りをしているそうです。現在の課題は、焼却後の灰処理問題で、理由はイノシシの止め刺しのほとんどが安全のため銃を使用するため、灰の中に国の基準値を超える鉛成分が検出され処分できないため、解決方法を研究しているとの事でした。

館山市の猟友会会員は、2000名が登録しておりほとんどの人が罨免許取得者だそうです。自分の農地を守るため手軽に免許が取

れる罨猟に人気があり、最近では農業従事者以外の若い人も増えているそうです。地域の猟師は、山の中に入つての駆除をほとんどしておらず罨にかかった鳥獣の止め刺しだけの事です。館山市には2人の地域おこし協力隊が在籍し罨免許も持っているので、1人30か所のイノシシ罨をしかけているそうです。他にも地域の柵や電牧はり、修理などもしていました。猟師の高齢化が進み人数が減ってきているため確保対策として都市部のパーパーハンターを呼び狩猟をしてもらい、やる気のある人家族で移住も進めていきたいとの事でした。

もう1か所の研修先のジビエセンターは、焼却処理施設運用開始前年の令和3年にオープンしイノシシを中心にジビエ加工処理をしていました。有害鳥獣駆除後の埋設等の廃棄処理が重作業のため、捕獲者の大きな負担となっており、その負担軽減と命を無駄にしないという理念を持ち開設したとの事でした。センター長は、地域おこし協力隊1期目に活躍していたそうです。センターは市内1時間圏内なので新鮮な捕獲動物が搬入されます。そして迅速な解体処理をするので高品質でクセがない美味しい肉ができるそうです。昔

から薪を伐るために成長の早いどんぐりの木を植樹していたので、豊富などんぐりを食べたイノシシは、イベリコ豚のような味がするため「房州ドングリ猪」というブランドで売り出しています。肉にならない個体は隣の焼却処理施設に運んでいました。駆除した個体は買い取りとなり、更にジビエ肉になると増額されるシステムのため、捕獲従事者はなるべく新鮮なうちに運び込んでいます。肉以外の部位は、皮は加工して財布などの革製品、内臓などは集めて肥料や堆肥に、骨はアート作品やスープの原料にと命を無駄にしない理念の元、様々な部位を活用しています。また、東京でジビエ製品のPR活動や学校などでの講演も実施しているという事です。最後の話として新鮮なアライグマも美味しいと言っていました。

北海道には、シカがたくさん生息しています。シカ肉は海外で高級食材の一つになっており、都市部でも少しずつ浸透し、道内の一部の自治体でシカを捕獲、育成し販売しています。ハンターによる駆除や電牧、柵で農作物を守る以外に、自分自身で罨を仕掛けて捕獲し、その肉をブランド力のあるジビエ食品



東議員との面会、農水省研修

として売り出すという方法もあると知りました。安定供給できる狩猟方法、高品質のまま加工場に集める方法、販売方法など様々な課題がありますが、官民一体となってアイデアを出し合い問題解決をしてほしいと思います。

(山形 真一)

2日目は、衆議院議員会館で東衆議院議員と面会し、鹿柵も年数が経過することによりネットが傷み修復が困難なことなど、富良野

市における鳥獣害の被害と実態について、各委員からたくさん意見を述べさせてもらい、現状を理解していただきました。

午後からは、農林水産省に場所を変えて農村振興局鳥獣害対策農村環境課鳥獣害対策室の岩城課長補佐、谷川課長補佐の2名に出席していただき、意見交換を行いました。

まず富良野市の鳥獣害の実態を説明した後に、農水省で用意していただいた資料（「鳥獣害の現状と対策」「鳥獣害防止総合対策交付金」）について説明していただきました。その中でも令和6年度より鹿対策として、集中的に鹿被害を低減させる取り組みに対する支援が新しく追加され、特に北海道は該当するので利用してほしいとの説明を受けました。

1時間30分という短い時間ではありましたが、お互いに勉強になったと思います。（井上 透）

**日本UAV利用促進協議会視察**

最終日になりますが、TKP赤坂カンファレンスセンターの会議室をお借りして、日本UAV利用促進協議会のドローンを活用した事業内容についてスライドを使っ



て説明頂きました。事業内容については様々な分野にわたり、空中からの撮影のみならず赤外線カメラを用いた密漁監視や港湾警備、中山間地域への物資の輸送とオンライン診療の実証実験などの他にドローンのパイロットの育成にも力を入れているとのことでした。

農業分野へのサービスとしては、農薬や肥料の空中散布や畜舎への遮熱塗料の散布も行っているそうです。鳥獣害対策として

- ・ 赤外線カメラを使った生育地、活動範囲の把握
- ・ 害鳥の繁殖抑制
- ・ 音声などによる追い払い
- ・ 害獣の追尾などの狩猟のサポート

など農家やハンターと連携して害獣の行動パターンを考察し有効な対策を考えているということですね。ドローンを使うことで人の入れない場所も含め広範囲に短時間で、しかも夜間でも動物の行動を安全に確認できるという大きな利点があります。意見交換の中ではハンターのなり手不足や高齢化の今、これ程までに増えすぎてしまった鹿などの有害動物への対策にドローンを使った追い込みや駆除方法について様々な意見が交わされました。今後さらに研究を重ね有効な利用方法を開発したいとの事でした。

空中からの駆除方法には様々な課題がありますが、個体数や行動範囲などの情報を集めながら鳥獣害対策をしていくには欠かせないツールになると思います。

（清水 直樹）

**活動報告**

**市長部局と合同で作柄調査を実施**  
【7・14】

7月14日に農業委員20名、事務局3名、副市長、経済部と合同で、



普及センターの方々を招き作柄調査を行いました。

調査前に普及センターより、今年の気象動向と生育状況の説明を受けて出発しました。午前中は上五区の玉ねぎ試験品種、南扇山からし菜、JAふらのの玉ねぎ選別施設をまわり、午後からは大沼の水稲、鳥沼のほうれん草、布礼別の人参、ミニトマト、東山のこんにゃく芋、麦、山部のRDFボイラー、スイカ農家をそれぞれ視察しました。玉ねぎ選別施設では設備の導入により作業効率の向



上、製品質の安定化、人手不足の解消に寄与し、より良い商品を出荷できるようになっていました。

各地区の視察ではからし菜やこんにやく芋など、初めて見る作物もありましたが、これまでの天候に恵まれ作物も良い傾向にあると感じました。まだまだ燃料、肥料など資材代の高騰が続いています。山部地区のRDFボイラーの様子に燃料代を節約するなど、皆さん努力をされていきました。

この努力が実り、天候に悩まされることなく良い出来秋を迎えられるよう祈りつつ、この日の視察を終えました。

(仁原 憲和)

議会とのまちづくりトーク

【8・18】

8月18日に農業委員会と市議会の経済建設委員会との情報共有を目指し、まちづくりトークに参加しました。

市議会にとっても大切な意見交換の場として数年前から毎年行われています。今年は農業委員会の他の農政部会も参加となりました。

及川会長のあいさつの後、富



良野地区の農業の概要を説明し、今回の議題として鳥獣被害の実態と対策に焦点を当て、中元農政部長の進行で議論を進めていきました。

各農業委員が、鹿の生息頭数増大を深刻な問題として考え、地区から鹿柵の現状や、農作物の被害状況を報告しました。

各地区とも鹿以外に熊・アライグマなどの被害が近年増えており、個人対応では立ち行かない現

状を市議会議員に説明しました。

農業委員会からの現状説明の後、市議会側から市として中山間の交付金を活用して電気柵の設置や鹿柵の補修、箱罾の貸し出し等の取り組んでいるという話しと、今後上川地域鳥獣害対策連絡協議会を通して道や国に広域的な鳥獣害の対策や、補助事業の拡充を要請していくと言う説明がありました。

市議会からは、行政だけではなくJAや各団体も含めて富良野沿線がどう取り組んでいくのかを議論していく必要があるとの話が出て、各委員や、農業出身の議員の中から、農家自体も対策をとらないといけないのは理解するが個人で対応するのは難しいなどの活発な意見が出されました。

今回各地区の農業委員からたくさん意見や要望が出ました。この内容を元に富良野市として鳥獣害対策の参考にして頂きたいと願っています。

また、色々な問題点がある中で、今後、市議会側と農業委員が議論を積み上げていく作業を行うことで、農業に良い流れが出来ていくよう今後もまちづくりトークへ参加をしていきたいと思えます。

(杉村 鉄也)

農地パトロールを実施しました

【10・11】

農業委員会では農地利用の総点検、遊休農地の実態把握と発生防止・解消指導、違反転用の発生防止及び早期発見・是正対策のため農地パトロールに取り組んでいます。

農地パトロールは、農地法により年1回実施することが定められており、農地パトロール推進会議を開催の上、実施します。

事前に各委員が地域内を見まわり、その後、農地部会としての現地調査を10月11日に実施しました。

今回は各地域より報告された22カ所の農地を現地確認した後、農地パトロール推進会議を開催し、所有者に対して利用意向調査を行うなどの対応を行う事としました。

農地パトロールの実施により農地保全の難しさや重要性などを再度確認できました。地域によっては山際の農地のため、鹿・熊等の獣害がひどく農地の維持が困難な場所など、多種多様な問題があることを再認識しました。このことを通して委員全体で富良野農業の

発展を目指したいと思います。  
 今後も皆様のご協力を宜しく  
 お願い致します。

(渡辺 昌彦)

**地区別農業委員・農地利用  
 最適化推進委員等研修会**

[12・5]

12月5日、旭川市大雪クリスタルホールにて上川地区の研修会が行われました。

多くの農業委員会が7月に改選期を迎えており、今回の研修会は新人が多いと見込まれる事を踏まえ、  
 (1)農地関係法制をめぐる情勢について  
 (2)農業委員会制度の概要について

(3)農地法・農地中間管理事業法等に基づく農地制度について

(4)農業者年金制度について  
 以上4点についての研修となりましたが、その中でも今後の業務内容が大きく変わる法改正について重点的に研修が行われました。

農業経営基盤強化促進法等の一部を改正する法律の施行と農地中間管理事業の推進に関する法律の内容の一部の改正・施行が令和5年4月1日に行われて、今後どの



様が変わるのか説明を受けました。農用地利用集積計画から農用地利用集積等促進計画による権利移動に切り替わる事で変わる点、市町村の地域計画の策定に関する目標地図の素案作成の概要について等、過去の研修会で触れられた点や追加された点等を踏まえ、今年初めに聞いた時より取り組みやすくなった印象を受けました。  
 後半には農業者年金制度についてのポイントとメリット等の説明を受け、最後に全国農業新聞の説明と収入保険の説明を受けまし

た。  
 新人が多いことをから基本的な部分にやや重きを置いた内容でしたが、今後増える業務の知見を深める研修会となりました。

(今村 丈哲)

**農業者年金研修会**

[12・13]

旭川市大雪クリスタルホールにて、令和5年度市町村農業者年金協議会代議員等研修会が開催されました。

本年度は、上川管内の多くの農業委員が改選され、また、新型コロナウイルスも5類に引き下げられたこともあり、沢山の委員さんが出席されていました。

事務局である北海道農業会議より以下について説明を受けました。

- ・農業者年金制度の現況について
- ・新制度の農業者年金について
- ・農業者年金制度の充実に関する要望と制度改善状況について

農業者年金制度の現況については令和5年度(4月～9月)の時点で北海道では175人の新規加入者がありました。昨年同期より加入者は減少しているとの事でした。富良野市においては4人が

加入されています。  
 新制度の農業者年金については、昨年度①通常保険料の下限額の引き下げ②受給開始時期の拡大③加入可能年齢の引き上げの3点が改正され、より加入しやすく、生活設計に応じた年金受給が可能になりました。

農業者年金の運用状況については、平成14年度から令和4年度の21年間の平均利回りはプラス2.74%となっています。毎年プラス運用がなされるわけではありませんが、長期的な運用を通じてプラスの付利を確保することが期待できるもので、令和4年度から(被保険者ポートフォリオ)の資産構成を従来の外国債券5%から20%に増やし、国内債券を71%から56%に変更して、より安定的な運用利回りの確保に努めています。また、安定的な付利を行うため、一定水準以上の運用成績が得られたときに運用収入の一部を留保し付利準備金として積み立て、マイナス運用のリスクに備えているなど、元本割れの危険回避のために工夫されていて、農業者年金には多くのメリットがあることを改めて認識させられた研修会になりました。

(増田 郁哉)



## ふらの未来農業EXPO2023開催



# 次につなげるふらの農業が テーマ 富良野農業3つの農力の向上 (経営力・技術力・人間力)

●農業の基礎となる人づくりと  
土づくりを学ぶ

市では昨年から「富良野農業の3つの能力向上」をコンセプトに、経営力・技術力・人間力を中心としたセミナー、展示会、視察そして体験型講習会を今年も行ってきました。農業の魅力を伝える内容や土づくりなど現場目線の内容も入れながら、5日間にわたる日程で開催しています。

11月16日と17日は、新庁舎にてセミナー8講演と展示会を2日間行いました。担い手や外国人、緑肥や排水対策の講演、野菜と健康にかかわる講演、そしてスマート農業にかかわる意見交換会と内容は多岐にわたり、農家以外の参加も見られました。展示会ではデータ活用やトラクターの管理、人の管理をできるシステム開発を手掛ける企業などが出展しました。2日間で延べ245名が参加し、各講演で参加者からの質問やアンケート回答からも関心の高さが伺えました。

そのほか、視察については旭川フードデザイン研究所にて加工の技術と商品開発について学びました。そして、市民と富良野市の主力産品である玉ねぎのほ場と選果場、料理までを体験するツアーを実施し、身近な玉ねぎを深く学ぶ機会となりました。

## 富良野市農業者年金協議会よりお知らせです

富良野市農業者年金協議会(会長 及川栄樹)では加入推進のため戸別訪問等を実施しています。未加入の方は、この機会に是非加入をご検討ください。

【富良野市の加入状況】 令和5年9月末時点

282名(全道の市町村で9番目の加入者数です)

★うち男性190名(67%)

★うち女性 92名(33%)

### 農業者年金3つのメリット

- ①女性に優しい
- ②若年層には手厚い政策支援
- ③税制面で大きな優遇



## 全国農業新聞

週間 月4回金曜日発行

新聞本紙 月額700円(税込) ※電子新聞も閲覧可能

電子新聞 月額500円(税込) ※電子新聞のみの閲覧

- ①わかりやすい農業・農政の解説
- ②みんな知りたい経営・流通の最新情報が満載
- ③くらしと地域に活力を
- ④女性の元気を応援
- ⑤文字が大きく読みやすい

お問い合わせは  
農業委員会事務局まで!

## 令和6年 富良野市農業委員会総会 開催予定日

※開催日については変更になる場合があります。

委員会議案提出期限	農業委員会総会	
令和6年 1月11日(木)	第647回農業委員会総会	令和6年 1月19日(金) 15:30～
令和6年 2月 9日(金)	第648回農業委員会総会	令和6年 2月22日(木) 14:00～
令和6年 3月 8日(金)	第649回農業委員会総会	令和6年 3月22日(金) 14:00～
	第650回農業委員会総会	令和6年 4月 1日(月) 14:30～
令和6年 4月10日(水)	第651回農業委員会総会	令和6年 4月24日(水) 14:00～
令和6年 5月10日(金)	第652回農業委員会総会	令和6年 5月24日(金) 14:00～
令和6年 6月10日(月)	第653回農業委員会総会	令和6年 6月20日(木) 14:00～
令和6年 7月10日(水)	第654回農業委員会総会	令和6年 7月24日(水) 14:00～
令和6年 8月 9日(金)	第655回農業委員会総会	令和6年 8月22日(木) 14:00～
令和6年 9月11日(水)	第656回農業委員会総会	令和6年 9月25日(水) 14:00～
令和6年10月10日(木)	第657回農業委員会総会	令和6年10月24日(木) 14:00～
令和6年11月 8日(金)	第658回農業委員会総会	令和6年11月21日(木) 14:00～
令和6年12月 9日(月)	第659回農業委員会総会	令和6年12月20日(金) 15:30～

## 富良野市の農地賃貸料情報

令和5年1月から令和5年12月までに締結（公告）された賃貸借における賃借料水準（10a当り）は、以下の通りとなっています。

### 【田（水田）の部】

締結（公告）された地域名	平均額	最高額	最低額	データ数
富良野西部全域	6,600円	12,000円	3,300円	11件
山 部 全 域	3,800円	6,000円	2,600円	20件
東 山 全 域	4,800円	6,000円	1,800円	11件
富良野東部全域	—	—	—	—
(参考) 富良野市平均	5,100円	—	—	42件

### 【畑（普通畑）の部】

締結（公告）された地域名	平均額	最高額	最低額	データ数
富良野西部全域	2,800円	4,000円	2,500円	10件
山 部 全 域	2,100円	3,000円	1,800円	12件
東 山 全 域	2,000円	5,300円	1,000円	206件
富良野東部全域	2,100円	2,900円	1,900円	93件
(参考) 富良野市平均	2,100円	—	—	321件

- ※1 データ数は、集計に用いた筆数である。
- ※2 金額は、算出結果を四捨五入し100円単位としている。
- ※3 データ数5件未満は情報提供対象外とする。
- ※6 富良野市東部全域は八幡丘・富丘・布礼別・麓郷地区とする。
- ※5 富良野西部全域は山部・東山・富良野東部全域を除いた地域とする。